

路地百選推薦書【No. 2 4 9】

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	京都古川町商店街
所在地	京都市東山区古川町通三条下る 3 丁目唐戸鼻町 555 番地

【推薦する理由（路地のよいところ）】

古川町商店街は、古くから東の錦と呼ばれにぎわっていました。その時代から、人と人とのつながりを大切にし続け、気がつけば昔と変わらない、ゆったりとした時間が流れる、レトロな商店街になっていました。安土桃山時代以前より若狭街道（通称：鯖街道）として南北に通っており、寛文 6 年（1666 年）に古川町通りとなりました。町名の由来は、近くを流れる白川の旧流水路または畑地の字地名によるといわれています。江戸時代中期以降、附近に人家が密集して市街地化が急速に進むことになります。現在の商店街北入口と交差する三条通はかつての東海道であり、京都の表玄関として交通の要点で、知恩院、八坂神社、清水寺への参道として人の往来が盛んでした。主に食料品、日用必需品をあきない、明治以降も同様に繁盛をしましたが、周辺居住地域の開発と共に次第に商圈は狭まりました。

【写真添付】



中央：三条通りからの入口
上と右下：通りの提灯
右上：三条通り入口の
写真



路地	面積	約 h a	路地の延長	約 300m
のま ちの 概要	まちの 成り立 ち、 特色等	戦後、昭和 25 年に古川町朝日会として発足し、昭和 38 年に簡易アーケードを建設、昭和 39 年に商店街振興組合に法人化、昭和 47 年には本格アーケードを建設、昭和 56 年に統一看板を設置、南北約 300 メートルの通りの中に約 50 軒もの店舗が立ち並ぶ商店街となり、以降も商店街の街路整備、近代化に努力し、店舗数は減少しましたが現在に至っています。		

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。